子育てかわら版 第16号

園長だより１２１号復刻

過去の園長だよりです

平成１９年５月２日発行

紙オムツははずしましょう

入園前に、「まだトイレの自立が出来ていないけれど、入園できるでしょうか」と質問してくるお母さんが何人かいます。そのときに私はいつもこのように答えています。「トイレの自立が出来ていなくてもオムツを外して登園させてください。仮に失敗したとしても、先生が世話をしてくれます。幼稚園は失敗してもいいところなのです。失敗を通して成長するのです。」

最近、トイレの自立が遅れている子が増えたように感じます。園長会でも話題になっていますし、保育の専門誌でも時々取り上げられている事なので、全国的傾向だと思います。子供たちのトイレの自立が遅れているのは、紙オムツの普及が原因している事はまず間違いのないことだと思います。

園長便り１２０号で人間には決まった成長のしかたがあると書きました。そのことについてトイレの自立を例にお話したいと思います。

人間は生まれたその時から、その年齢に応じて自立に向かって発達課題を一つ一つ積み上げていきます。０歳～１歳にかけての発達課題は『基本的信頼感の獲得』という人間が生きていく上で最も基本であり、これが無ければ生きていけない最も大切なものを手にする時期です。１歳～３歳ころの発達課題は『自律心』の芽生えです。自律心とは自分のことは自分で行う、即ち、他人の働きかけによって行うことではなく、自分でコントロールするという事です。食事や衣服の着脱、その最もはっきりと現れるのが、トイレの自律です。

赤ちゃんの時は嬉しいとか、悲しいと言うような感情はまだ芽生えていません。快か不快だけの感覚です。オムツが濡れて気持ち悪いという不快感をお母さんがオムツを取り替えてくれることによって快感に代わることを繰り返し経験することを通し、自分の力で不快感を避けようとして膀胱が大きくなったり、おしっこをしたいことを訴えるようになっていきます。トイレの自律が育つのが２歳前後であることを考えると、３歳を過ぎてまだオムツをしているのは自律が遅れていますから今すぐオムツを外しましょう。

昔のように布オムツの場合はおしっこをしてオムツが濡れると間違いなく不快を感じますが、紙おむつの場合は、『おしっこをしてもサラサラしているとか、3回まで大丈夫』が売り物になっています。これでは赤ちゃんがおしっこをするたびに経験する不快感によって自律が育つのを妨害していることになります。ですから、遅くはなりましたが、今からパンツに替えてパンツを濡らすことによって不快を感じさせることを始めて欲しいのです。

エリクソンという人は、人間の発達段階は年齢によって決まっているといっていますが、また、その時期にやり残したことであっても後からでもやり直しがきくとも言っています。やるべきことは、たとえ後からであってもやらなければならないということだと思います。

始めのうちは手間がかかるかもしれませんが、オムツで経験するか、パンツで経験するかの違いです。一度は通らなければならない道です。

私が重要に考えていることは、**一つのことができる事が次の発達の準備が整った事になるわけですから、やり残しておくことは、次の発達に進めないことになります。準備が不十分なまま次の段階に進むことは、次の段階も不十分で終わることになりますので、しっかりと卒業させましょう。**